
◎一般質問

○議長（斉藤 重君） 日程第1、昨日に引き続き一般質問を行います。

◇ 福 本 栄一郎 君

○議長（斉藤 重君） 質問の通告がありますので、発言を許します。

通告順位6番、福本栄一郎君。

（2番 福本栄一郎君 登壇）

○2番（福本栄一郎君） 通告に従いまして、一般質問を行います。

私の質問は「市政の取り組みについて」と「暮らしの安心・安全について」「子育て支援について」の3件であります。

町民の安心・安全な生活を守るため具体的かつ満足のいくわかりやすい明確な答弁をお願いいたします。

最初に、町長は松崎町の人口約7800人の代表として、市政の取り組みについてお伺いいたします。質問の1点目としまして、町長就任から3年が経過しますが、就任時の高い志と情熱にあふれたまちづくりに掲げた諸施策の進捗状況と今後の展望についてお伺いいたします

2点目は、近年、事務事業評価や事業仕分けが行われていますが、当町の取り組みについてお伺いいたします。また、限られた予算、人員の中では事業を取捨選択し、実施していかなければ町長及び町民が期待する成果が望めないのではないかと思います。どうでしょうか。

3点目は、各種団体に対する補助金はどのような考え、基準で交付しているのか。また、団体に対する指導及び管理についてお伺いいたします。

4点目は、松崎町第5次総合計画に関する地区説明会を開催しましたが、町民の要望、意見をどのように反映していくのかお伺いいたします。

次に、暮らしの安心・安全についてであります。

県内の他市町では津波避難タワーの建設及び計画が急ピッチで進められていますが、当町の対応は遅々としています。避難路の整備促進も含めて、町民の安心・安全の確保が第一と考えますが、町長の英知と判断と決断についてお伺いいたします。

次に、子育て支援についてであります。

当町の奨学金は低すぎると思うが、他市町の状況と拡充する考えについてお伺いいたします。

以上、壇上からの質問を終わります。

○町長（齋藤文彦君） 福本栄一郎議員の一般質問にお答えします。

1. 町政の取り組みについて。①「町長就任から3年が経過するが、就任時の高い志と情熱にあふれたまちづくりに掲げた諸施策の進捗状況と今後の展望について伺います」についてであります。

私は、就任に際して、平成の花とロマンのふる里づくりによる松崎らしい田舎づくり、人づくりをもとに少子高齢化を土台としたコミュニティづくりによる町の活性化を目指してまいりました。その土台の一つがグリーンツーリズムの推進であると考えて取り組んでまいりました。その取りかかりとなったのが、農水省等が行っている「子ども農山漁村交流プロジェクト」であり、農山漁村の体験を通して、子どもの成長を支える教育活動です。

この農山漁村での指導者となるのが各分野での経験豊富な地元の人々であり、そこでの生きがいや報酬による活性化を目指しております。平成23、24年度は農水省の受け入れモデル地区としてメニュー開発や体験受け入れを実施したところであり、今後は受け入れ態勢の充実と誘致を重点的に対応することで全町に広められたらと考えています。

また、地域資源の活用や人材育成により、1次産業、2次産業、3次産業を活性化させ、6次産業を生み出し、地域の活性化、人口の流出の歯止め、流動人口の増加を目指すこととし、ハーブの試験栽培や、民間活力による、よもぎ栽培、川のり養殖などの事業が進められておりますが、緒に就いたばかりですので、6次化への調査、研究が必要な段階と考えています。

いずれにしましても、職員・住民の意識改革の上で、町の力を結集したまちづくりを目指しておりますので、お気づきの点等がございましたら、ご指導くださいますようお願い申し上げます。

②「近年、事務事業評価や事業仕分けが行われているが、当町の取り組みについて伺います。また、限られた予算、人員の中では事業を取捨選択し、実施していかなければ町長及び町民が期待する成果が望めないのではないかと思うが、どうか」についてであります。

当町においては、過去に行政改革大綱実施計画を平成17年度から21年度にかけて実施しました。その中で、住民満足度の向上および行政経営品質の向上に向けた事務事業の再編、整理として各課で行っている事務事業について事業内容、効果、費用等について評価を行い、その結果、事業の費用対効果を意識した事業の見直しが行われ、その意識は現在も職員間に踏襲されているものと思っております。今後も継続させていくことが大切と考えております。

事業の選択については、おっしゃるとおり限られた予算、人員ですので、慎重に対処して町民の期待に応えてまいりたいと考えております。

③「各種団体に対する補助金はどのような考え、基準で交付しているのか。また、団体に対する指導及び管理について伺います」についてであります。

各種団体への補助につきましては、ここ数年は前年度を基準としたゼロベースで臨んでおります。その中で、補助金を与える地域経済への影響や、団体における補助金の重要度等を最終的に判断して交付しております。

平成22、23年度決算の補助金の動向を比較しますと、22年度補助金総額3312万4000円、23年度が3369万5000円で、ほぼゼロベースとなっていますが、特定のイベント等がある年度は実行委員への補助金額分が必然的に増額となってまいります。補助団体への指導につきましては、各担当課において補助金の目的に沿った事業活動が遂行されているか。また、その事業効果などについて予算要求時における内容精査を通じて指導等を実施しております。

また、補助金が多額となっている団体は役員等の立場で参画することで対応しております。

④「松崎町第5次総合計画に関する地区説明会を開催しましたが、町民の要望、意見をどう反映していくのか伺います」についてであります。

松崎町第5次総合計画の策定にあたり町では11月12日から4日間、松崎・中川・岩科・三浦地区の4会場で町民の皆さんに幅広くご意見をいただくため、地区説明会を開催させていただき、延べ106名の出席者がありました。また、11月15日から11月30日まで町のホームページや企画観光課で総合計画（案）を示して、パブリックコメントを行ったところです。

地区説明会やパブリックコメント等で寄せられたご質問、ご意見は総合計画委員会の中で審議し、計画の中に反映出来るものは反映することにしております。

なお、寄せられた個別の事業につきましては、今後の実施計画を策定する中で検討してまいりたいと考えております。

2. 暮らしの安心・安全について。

①「県内の他市町では津波避難タワーの建設及び計画が急ピッチで進められているが、当町の対応は遅々としている。避難路の整備促進も含め、町民の安心・安全の確保が第一と考えるが、町長の英断と判断と決断について伺います」についてです。

避難タワーの整備については、藤井議員、高柳議員、関議員にお答えしたとおりです。新年度整備に向けて指示をしているところです。

避難路等の整備につきましては、自主防事業の補助金の見直しを本年9月1日に行い、補助率のアップに合わせて、補助メニューも追加し、防災倉庫や避難地、避難路整備も加え、避難地、避難路の整備に係る原材料購入費の補助率は50万円を限度に10割とするなど、自主防が利用

しやすくしたところです。

専門的な技術が必要で、自主防の整備が困難な場合は、町で実施することとしております。なお、昨日も申しましたが、安全・安心なまちづくりを新年度予算編成の重点施策としておりますので、ご理解、ご協力をお願いしたいと思います。

3. 子育て支援について。

①「当町の奨学金は低すぎると思うが、他市町の状況と拡充する考えについて伺います」についてです。

当町の奨学金貸与制度は義務教育を終えた後も向学心に燃え高校、大学等の上級学校に進学する方に就学に必要な一部を貸し付けています。貸付金額は入学時の10万円と就学期間の月額5000円、他に年金保険料相当1万4980円となっています。

近隣の市町の状況は、日本学生支援機構の資料からの抜粋になりますけれども、東伊豆町が資格条件として、心身健全、成績優秀、学資の支弁が困難ということで、月額、高校生が2万円、大学生が3万円になっています。河津町は資格条件として、高校に在学し、学力優秀、学資の支弁が困難、月額、高校のみ7000円。西伊豆町が資格条件として、高校、これに準ずる学校に進学する者、学業優秀、学費の支払いが困難、月額、高校1万円となっています。その他の市町の資格条件も学力優秀、経済的理由を対象にしているところが多くみられます。

このように、当町の資格条件は他の市町と比べ緩くなっていますので、一概に金額だけでは比較できないと思いますし、金額を上げる場合は合せて貸付条件の見直しも考える必要があると思います。

以上です。

○2番（福本栄一郎君） 一問一答でお願いします。

○議長（斉藤 重君） 許可します。

○2番（福本栄一郎君） 最初、1番目からいきます。

町長就任から3年が経過します。残すところあと1年ということなのですが、就任時の高い志と情熱にあふれたということなのですが、私も毎回言っておりますが、町長の平成21年の施政方針演説で「この町は変わるぞ」ということで情熱に非常にあふれて高い志がついていますけれども、未だに目に見えた施策が表れていないです。

町長の頭の中では駆け巡っているでしょうけれども、実際この冷え切った松崎町の中には全然その効果が表れていないです。実際仕事もないです。特に職人さんたちの仕事というのは何もない。ほとんど建築、土木というのは、町の仕事なんかありません。土木関係について

は、県の国道とか県道の部分的な整備、町としては何も動いていない。

いわゆる「コンクリートから人」ではなくて・・・、バロメーターというのは、黄色いある会社の生コン車が全然動いていない。その裏に関すると、仕事は何も出ていない。

確かに町の財政は厳しいでしょうけれども、いわゆる建設関係の仕事がない、一般の家でも建築の仕事なんかほとんどない。

そういった中で、町長の頭の中に描いている平成の花とロマンの里は結構でございますけれども、目に見えた効果が表れていない。その辺はいかがなものでしょうかということですので、その辺はどうでしょうか。

町長は残すところあと1年の任期です。平成25年度が最終の当初予算、いわゆる建設的な投資的な効果がどの程度表れているかわかりませんが、過去3年間の仕事をみますと、投資的・・・、義務的経費は当然多いんですけれども、投資的経費が非常に少ない、その辺の考えはどうでしょうか。

○町長（齋藤文彦君） 松崎はうんぬんと言われますけれども、いま日本はデフレ、円高、株安で製造業が全部外に出ていくというような経済が下降線をたどっているわけで、松崎町だけ上昇というのはなかなか厳しいところがあると思います。

ただ、松崎は何と言いますか、本当に松崎が生き残るためには、私はよく花とロマンのふる里づくりは松崎らしい田舎づくりだ、人づくりだと言っているわけですが、私は、グリーンツーリズムを推進して、また歴史的景観整備事業、そして、鰻絵のまちづくり推進事業、若者のまちづくり推進事業、花の咲くまち推進事業と、そのようなものを土台としてまちづくりを行って、私は松崎が元気になるためにはなんだかんだ言っちゃってやっぱり観光業が元気にならないければ、私は松崎は元気にならないと思っています。

ただ、今までのような観光ではなくて、やっぱり農業の土台とした、その上に観光業が成り立っているというようなまちづくりにならないとこれからの松崎の観光はなっていないと思います。観光する人の目線というのが自分の勉強したいこと、体験したいこと、本当にピンポイントで来ますので、松崎町の「これのこれがしたい」と、それで遊びにきたいと、一緒に学びたいというような感じで来ますので、そのようなことを考えて体験メニューを増やしたいということで、私は、全町まるごとふる里自然体験学校として、教師は町民であると、そして、町民の皆さんが教えることによって対価を得るというようなことが一番松崎がこれから生き延びる道ではないかと思って、私はこれをずっとやってきているんです。

このグリーンツーリズムにしても、農山漁村交流プロジェクトですけれども、これも3年や

っているわけですが、今年初めて・・・、3年間モニターツアーというのをやっていろいろ各地から先生に来てもらっているいろいろな体験メニューをしてもらっているわけですが、今年初めて三島市立南中学校というのがまつざき荘に泊りまして、それなりの効果が出ているなと思っていますので、このようなことを私は積み上げていきたいと思っています。

私が本当に全町まるごとふる里自然体験学校と、体験を通して対価を得るというのは、ちょっと形を変えますけれども、松崎町を一つの旅館として35の自治区がそれぞれの部屋であると、それぞれの自治区がいろいろなことをやって、ここにきたらこういうことができる、ここにきたらこういうことができるというようなことをやっていくのが私の理想ですが、なかなか難しいと思いますけれども、そのような形でやっていけばいいのかなと思っています。

修学旅行がきますと、岩地の皆さんが潤うし、石部の棚田でもそれなりの稼ぎをしているし、雲見のスキューバダイビングも稼いでいるし、それで、村田君たちがシーカヤック等をして稼いでいるわけですが、そのように何と言いますか・・・、形になっていけばいいなと思っています。

ちょっと長くなってあれですが、私は済州島に行って来まして、その時に本当に痛切に感じたのは、やっぱり観光をするには交通がちゃんとしなければいかんというようなことを痛切に感じました。あそこはもう国際都市ですので、中国から飛行機がバンバン飛んできて、堂々島みたいなところに本当にもうバスが何十台も並んでいて、中国の人があふれていたわけですが、やっぱり一番まつざき荘を活気づけるためには、そういうことと一緒にやっぱり交通の便を良くしなければいかんと思いますので、そのようなことを県の方に行って陳情をしているところでございます。

○2番（福本栄一郎君） いわゆる建設的な投資というのは、国の補助金を利用して、例えば、災害復旧事業、これはもう通常でしたら、率が変わらなければ3分の2くると思うんです。

これは町長は町の中を歩いてご存知かと思いますが、いわゆる農道、林道、河川、町長管理の普通河川、荒れ放題じゃないですか。こういった災害の査定をとっているんですか、こういったことを利用して、なんで活性化を図らないんですか。

町長が言っている全町まるごとふる里自然体験学校、これも結構です。観光立町を標榜している松崎町でいいです。ただし、観光の人ばかりじゃないんですよ。観光業者は何軒あるんですか。職業分類、統計が出ているでしょう。それ以外の人たちはどうするんですか。もちろん観光が大事ですよ。観光以外に携わっている人がかなり大多数じゃないですか。その人たちの仕事・・・。例えば、職人さんたちの仕事・・・、一つの公共事業を国から金を持ってくる。県から持

ってくれば、その波及効果があるでしょう。ガソリンスタンド・・・、いろいろな関係で。

そういったところはどうでしょうか。農道、林道、河川がみんな災害で傾いているじゃないですか。その辺はどうですか。

それと、もう1点ですよ。あなたは先ほど済州島ですか、韓国へ・・・、前回上海へも行ってきたようですけれども、だったら、伊豆縦貫道を絡めたアクセス道路の整備はどうでしょうか。私も再々言っています。あの土肥新田のところのあれも予算が・・・、遅々として進んでいないじゃないですか、その辺はどうでしょうか。インフラ整備を含めてです。

○町長（齋藤文彦君） 公共事業というのは、国の予算が激減してなかなか難しいところがあると思うわけですが、松崎町はそれなりにやっていると思いますよ。詳しいことは担当課長の方から言ってもらいますけれども。

それで、伊豆縦貫とかなんとかのやつは、ぼくらはそれぞれの首長でいろいろ国とかなんとかにお願いに行っていて、それに肋骨道路、それに繋ぐ道路というようなことで陳情しているわけです。

だけど、今回塚原から塚本まで東駿河湾道路が出来て、それで、何と言うんですかね・・・、船原峠を下りてきた土肥新田の所が完璧になれば、ぼくらのところにとってはものすごく効果があるなと思って、そういうことも一生懸命陳情しているところです。

○2番（福本栄一郎君） 災害復旧を積極的にとるようにして、道路、河川、これは国が本来、災害復旧というのは、本来国がやるのを市町村長、都道府県知事がやっているんです。国が国道を建設するために国が係わるべきものを、手が回らない、いろんな関係で市町村長あるいは県に任せているんです。その辺はよくやって、25年度からは積極的に災害普及をとってください。それによって経済を活性化していくように、そういったことでやるような方針を定めてください。

次に、事務事業評価についてですが、これは、町長はいろんな・・・、予算関係をみていますといろんな仕事、目新しいようなことをやっていますよね。今度やります伊豆トレイルですか、それも結構でございますけれども、限られたこの・・・、町長以下どれくらいですか、90人くらいですか、職員が。こういった中で、通常の業務をこなす中で、予算が・・・、町長はあれもやりたい、これもやりたいと予算を見ていますとうかがえますけれども、何かがまとまっていない、焦点がぼけちゃっている。

結局は、もう「これもやめましょう」となると税金の無駄使いに繋がるんじゃないですか。町長がふる里の関係でやるならば、的を一つに絞って、それでやった方がいいんじゃないですか、その辺の考え方をもう一度お聞かせ願います。

○町長（齋藤文彦君）　いろいろああいうことをやりたい、こういうことをやりたいと言って手を広げたという感が無きにしも非ずだと思うんですけども、やっぱり集中的にやっていかなければいかんと、福本議員の言われることは、そのとおりだと思っていますのでそのようなことも考えながらやっているところでございます。

○2番（福本栄一郎君）　それが、ここは同じ宮内ですね。私も宮内で、私はよく通るんです。夜、10時、11時、これは前回一般質問でやりましたけれども、まだ電気が付いているじゃないですか。おそらく・・・、私は中に入ることができませんので、おそらくこれは電気の消し忘れじゃないと思うんです。職員の車もあるみたいです。こういった形で通常の業務にも関わらず、町長があれもやれ、これもやれといったら職員の身体がもつんですか。

振興公社の方は副町長の方から聞いて、なんか2人ほど気の毒なことをされたということを聞いていますけれど、そういったことがあったら困るじゃないですか。職員のメンタルヘルスも考えて、通常の業務プラス町長が的を絞った仕事、これをやりたいんだということでやった方がよろしいじゃないですか。その辺をもう一度お聞かせ願えませんか。

○町長（齋藤文彦君）　松崎町は一般行政職員が男女合せて53人で、職員全部を合せると89人でやっているわけですけども、私もやっぱり出張から帰ってきて10時頃になっていると、本当に一生懸命やっている人がいて、大変だなあと、ご苦労さんというようなことを声をかけていくわけですけども、やっぱり職員のことを考えて、それなりに、なんと言いますか、あまり広げないで集中的にやる必要があると。ただ、自分はやりたいことがいろいろありますので、こういうわけですけども、福本議員がいうように集中的にやっていく必要があるのかなということも考えながらやっていきたいと思っています。

○2番（福本栄一郎君）　ですから、町長はその辺を・・・、町長、ですから、出張の帰りに寄るんじゃないくて、出張に行かない日も、副町長も、国でいうと事務次官でしょうけど、のぞいてみたらどうでしょうか。職員に励ましの面もあるだろうし、その辺をお願いします。

次で、各種団体の補助金ですけども、この関係については、先ほど町長の方で・・・、全部で約3300万円ほど出していますけれども、別途監査報告書もきているんですけども、この辺があまりにも、見ている感じですけども、投げている。役場がやらなくてもいい、補助金団体で金をやればいい、その辺の考え方はないんですか。

それから、もう一つは、前年度ということですけども、これは延々と前年度、前年度ときている。町長が就任丸3年、その前の時には前の町長、その前の町長、町長のカラーが何も出ていないじゃないですか。この辺の考え方はどうでしょうか。

○町長（齋藤文彦君） 投げているとかなんとかという言葉の意味がよくわかりませんが、私は観光協会長とも商工会長ともかなり話す時間があって、いろいろこうしたらどうだろう、ああしたらどうだろうというようないろいろな話の中でこういうことを決めているわけでございまして、そのようなことは絶対ないなと思っています。

それで、やっぱりいろいろ言われますけれども、地域経済に与える影響ということを考えてやっぱりこういうことをやりたいと言ったら、それぞれのこういうことをやりたい、それはいいなと思ったら、それぞれの予算を付けてやっていますけれども。

○2番（福本栄一郎君） これは、先ほどの質問の事業仕分けの関係に絡めて、この事業仕分けの関係に今後かけますか。

毎年既設の今まである補助団体にあるから前年並みに予算を付けていくといったら、町長の考えが何もないじゃないですか。この辺は先ほどの質問も事業仕分けの関係についての、事業仕分けをこれからやる考えがあるんですか。

○町長（齋藤文彦君） 事業仕分けというのはなかなか難しいと思うわけですが、予算査定等でやっていて、皆さんからいろいろ厳しい目があるわけですから、それが事業仕分けの一部だと私は思っていますけれど。

○2番（福本栄一郎君） 先ほどの観光の関係を言っていますけれども、何か観光なんかにつきましては、観光協会へと丸投げのような感じです。役場の職員はどういった立場でいるんですか。予算を付けました。これは例えば、観光協会という一つの・・・、町長が言いましたので観光協会の例ですと、すべてみんな投げている。予算を取りました。国から・・・、県から補助金が付きました。これはいろんな事業だからみんな観光協会へやる。役場の職員との絡みは、その辺はどうでしょうか。

○町長（齋藤文彦君） 福本議員も以前観光協会の事務局長をちょっとやったというので、そのようなことがあると思うんですが、やっぱり要求に内容をちゃんと精査してやっている、そのようなことはないと私は思います。

○2番（福本栄一郎君） ですから、補助団体があるから、丸投げ・・・、じゃあ、役場の担当課の職員はどういった考えでいるんですか。町長の考え方がないじゃないですか。

それで、もらった方が前年並み、前年どおりやっていけばいい、これじゃあ、何も変化がないじゃないですか。しかも齋藤カラーが何も出ていないと思いますよ。齋藤町長のカラーが各団体・・・、観光協会だけじゃないですよ、いろんな補助団体があるでしょう、3300万円も出しているんですから。

この辺の齋藤町長のカラーが出ていないと思います。齋藤町長がこうしてもらいたい、何をしてもらいたいという指導がないようです。その辺はどうですか。

○町長（齋藤文彦君） その丸投げというのが、なかなかわからないわけですがけれども、いろいろ精査してやって、去年やってきたことがやっぱりこれは良かったから継続するのがいいのではないかなと思っています。

○2番（福本栄一郎君） これでこの関係は終わりますけれども、町長が実際補助団体に行って、役員の人たちと話し合ってくださいよ。回答はこれはいりません。あなたの色が出ていない。

○町長（齋藤文彦君） いま役場の職員も振興公社も商工会も観光協会も別々にやっているんじゃないくて、一緒にやらなければなかなか出来ないんで、そういうことは福本議員が言っているような、丸投げをするようなことにはなっていないと思いますよ。そして、私の意見も結構入っていると思います。

○2番（福本栄一郎君） その辺はもういいです。ですから、ちゃんと指導、監督をしてください。それで、事業仕分けを入れるものだったら入れてやってください。

次に、第5次総合計画ですけども、昨日の議員さんの中では、何かインターネットでやっているとか何とかと言っていますけれども、ホームページですか、先ほどの町長の答弁でホームページに掲載していると・・・、これはまだ総合計画委員会で答申をまだ得ていないでしょう。それはいいです。

私が言いたいのは、4カ所で延べ106人の町民の出席があったと、いろんな意見が出ています。この辺をどうとらえていくのかということをもう一度お願いいたします。

○町長（齋藤文彦君） いろいろな意見が出たわけですけども、それをいろいろ委員会の中で煮詰めて、それが私の方へ答申で返ってくると思っています。

○2番（福本栄一郎君） これは松崎町で出しています最近出た・・・、具体的に名前は出せませんが、何とか新聞という中で、何も目新しいもの何もない、それはそれでいいんです、これは日本全国みんな一緒じゃないかと、町がいわゆる手作りじゃなくて、委託して・・・、約500万円と言いましたっけ。委託で業者に出して、日本全国大体共通している。松崎町の特徴は何も出ていないじゃないですか。

それで、むこう10年間で計画を立てるのも結構ですけども、なぜ・・・、今さら言ってもしかたがありませんけれども、手作りでやらないんですか。日本全国ほとんど共通していると思うんです。こういったことが出ていました。私の読んだ感想ですよ。当然だと思うんです。

職員を・・・、こういった松崎町の基本でしょう。総合計画というのは。教科書です。町の人た

ちはこれに沿って期待も生まれてきます。こういったこともしてくれますか。

西伊豆町にいきましたら、同じことが書いてある。よく昔から聞いています。下田に行けば下田も同じ、松崎町のカラーが何も出ていない。

ですから、私が言いたいのは、4カ所でやっている・・、たとえ1人でも2人でも貴重な意見ですよね。その辺を取り入れて実態にそくした、身の丈に合った松崎町の総合計画を作る考え方はないでしょうか。

○町長（齋藤文彦君） 職員の意見が入っていないと言いますけれど、職員の方もこの中にたくさん会合を重ねて、意見がいっぱい入っています。

それで、その説明会というのは、やっぱり基本構想と基本計画で、実施計画はありませんので、どうしても「なんかわからない」というようなことがあったわけですけども、中にはいろいろな人がありまして、町長がどういうふうを考えているのかよくわからないと、だけど、総合計画の中に町長の意見を色濃く入れるのはちょっとどうなのかなというようなことがありますけれども、やっぱり行政経営理念とか、その姿勢、職場のあり方、自分はこういうふうを考えているよというようなものを何か違うような形でできればいいのかなと、これがどういうふうになるかわかりませんけれども、そういう自分はこういうことでやりますよ、こういう職場のあり方、経営の姿勢でやっていきますよというのを若干入れるようなところがあってもいいのかなと感じています。

○2番（福本栄一郎君） 職員じゃなくて、町民の貴重な意見を取り入れてください。延べ106人、4カ所に来ているでしょう。この意見を取り上げるということですよ。

いわゆる業者が作ったのではなくて、松崎町独自のユニークな松崎町ならではのことを作ってください。今後、向こう10年間の教科書です。それが総合計画でしょう。たとえ町長が替わったとしても基本的な屋台骨である総合計画、教科書があるわけです。それに沿っていくでしょう。そんなにかけ離れたものはできないと思うですけども、その辺が齋藤カラーの考え方を今後入れてくださいということです。その辺をもう一度。

○町長（齋藤文彦君） 業者が作った、業者が作ったと言いますけれども、町民のアンケートを取っていますし、私のインタビューも入っていますし、観光協会、商工会、漁協さん、老人会、社会福祉協会、農業振興会、6団体の皆さんといろいろ話し合っているわけで、多分業者が作ったというのでは・・、そう言われるとちょっと心外なんですけれども、結構町の皆さんの意見を取り上げてこれができているということをぜひご理解いただきたいと思います。

○2番（福本栄一郎君） 業者が作ったということではなくて、業者がアンケートを作ってくる

でしょう。そのアンケートを手作りでやったらどうでしょう。もう遅いでしょうけれども、そういうことです。これは回答はいりません。

それから、よくホームページに掲載したと言うでしょう、ホームページと言えば責任逃れみたいになりますけれど、ホームページを作れる人がいますか、おそらくホームページなんかを持っている人なんかほとんどないと思うんですよ。確かに、一般の固定電話はほとんど100パーセント近いでしょうけれど、パソコンを導入してやっている人はないと思います。その辺はよく・・・、今後気をつけてください。ホームページに載せてありますから・・・、ホームページは実際インターネットを引いていなければ見られないでしょう。だったら、きめ細かな・・・、放送なり、回覧板を流すようにしてください。

そういったことを、私としては非常にこれが・・・、別に私は・・・、確かに機械に疎いですよ。ホームページとよく言いますが、実際我われみたいに年を取ってくると、目もきかなくなる。わずらわしいです。機械を扱うことが。特に団塊の世代から上は。その辺は気を付けてください。ホームページとよく言いますが。これは回答はいいです。

それから、次の暮らしの安全・安心ですけれども、その避難タワーについては、町長は先ほど藤井議員、高柳議員、関議員というんですけれども、私は私の質問をしているんですから。その辺はよく答えてください。避難タワーはどうですか。

○町長（齋藤文彦君）　だから、避難タワーは昨日お答えしたとおりですけれども、西区と南区はやっぱり空白地帯があるから、ぜひそこは造りたいと思ってしまして、区長さんたちとの話し合いの中で要望が出てきましたので、いま進めています。

本当は町有地とか、区有地とかあって、危険場所にそういうものがあればすぐに出来るわけですけれども、民有地ですので場所を選定するのに非常に時間がかかる。そして、広さによりまですけれども、どのようなタワーがいいのだろうか、昨日関議員から本当に建設的な意見をいただいて、そのようなことを加味してぼくらも考えているわけですが、場所が決まらないことには、どのような形で、どのようなことが出来るかというのは、今は出来ていませんので、南区と西区の区長さんと場所についていま詰めているところでございます。

○2番（福本栄一郎君）　ですから、これはもう私も再々避難タワーの建設をやっていますけれども、私の持論としては、自宅から200メートル以内に造ったらどうでしょうかと、町長はやはり用地の問題とか何とか言います。それは確かにあるでしょうけれども、中には救命艇をなんと言う人もありますけれども、まず避難タワー・・・、このあいだ我われは議員研修でもう既に旧土肥町、富士市、御前崎市、既にもう出来あがっております。これが皆さんの安心・安全の心理

的な効果があるんです。避難タワーを造って、利用するようじゃ困るんですよ。100年に一度かわかりませんよ、これは。天変地異ですから、いま起きるかもわかりませんけれども、その辺の安心のために造ったらどうでしょうかということで、町長は来年度から計画するということは、我われとしても安心したということですからけれども、それに絡めて、避難路の整備はどうでしょうか。

特にこの町の中では西区・東区・中区ですか、海岸にすぐ近い、すぐに津波が来るというところですけども、だったら、宮内とか、道部、江奈はどうするんですか、その辺はどうですか。

○町長（齋藤文彦君） いま町では2カ所ですね。伊那下と相生堂を作って、自主防で江奈2区の皆さん、そして、宮内が絹の道をやっていただいています。こういうふうに自主防とうまく連携を取りながらやっていきたいなと思っています。

自分も歩いてみますけれども、それなりの山に逃げる道はあるのかなと思っています。私は牛原山町民の森をうまく利用して、あそこに遊歩道関係の避難路というのが出来ればいいのかと思っています考えているところでございます。

○2番（福本栄一郎君） 町長、牛原山に登ったことがありますよね。牛原山からこの松崎を見た人口密集地、約50パーセント近いところは・・・、なんと思うんですか、津波は・・・、既に町長は去年の6月ですか、既に賀茂郡町長会で東北の方を見てきたと、未だに復興ができていない、すべて平らになっちゃった。牛原山から見てなんと思うんですか。

避難タワーが出来ることは結構ですけども、あとは、道部とか宮内の避難路はどうするんですか。ただ自主防に任せました農道整備をと言っても農道なんかないです。歩く道だって急こう配です。その辺が役場としての考え方、予算の付け方、ただ生コンを支給するのは結構でございますけれども、ちゃんとした避難路を作る考え方はあるんですか。道部、宮内あるいは江奈についてもですね。その辺はどうでしょうか。

○町長（齋藤文彦君） 避難路は作らざるを得ないと思いますので、それは町がやろうかと言ってもいろいろ区の方と相談しながら一番いい方法を考えてやっていきたいと思っています。

○2番（福本栄一郎君） 時間を延長してもらえませんか。

○議長（斉藤 重君） 5分延長します。

○2番（福本栄一郎君） 避難路を自主防にといったって、自主防の人たちは技術的なことはよくわからないんです。当然役場は言うでしょう。生コンをやるから生コンでやってください。そうじゃないんです。ちゃんとした道を、測量なら測量をして、ただ、私が言うのは、車が入る道

を作れということじゃないですよ。遊歩道の昔の登り道、牛原山もかなりありました。宮内からも道部から登れました。それがもう荒れ放題で崩れてなにもありません。

それを技術的にどうしたらいいかということを町が率先してやってくださいということですよ。ただ自主防と言ったって、自主防の人たちはよくわかりません。ただ、生コンを支給すればいいと・・・、これでは投げやりだということです。町が率先して町民のことを思うならば、なんで町が積極的にやらないんですかということです。その辺はどうですか。

○総務課長（金刺英夫君） 避難路の関係につきましては、いま町長が答えたような状況ではございますけれども、一応地域の自主防の方々と私ども担当と協議をしまして、現地に出向きまして、本当の技術的な指導というよりもアドバイスの形のをさせていただいた中で、自主防共ども合せて避難路の整備をしているところです。

それから、併せまして、町内の方の避難路というので一番心配されるのがやっぱりブロック塀の倒壊、こういったこともあるわけでございますけれども、それらに対する補助金等もあるんですけれども、なかなかこれが思うように活用されていないという面もございますので、これからもまだまだ積極的にPRして、利用していただいて、避難路確保に向けてまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○町長（齋藤文彦君） いま課長が答えたようなことですけれども、町はそんなことをやっていきたいと思っています。

ただ、その震災に関しては、町、町と言いますけれども、基本的に住民の皆さんが自分の命は自分で守る、地域の命は地域で守るというような心構えがないといけないのかなと私は思っています。釜石の奇跡と言われているように、あれは子どもたちが自分たちで防災マップを作ったので、何があるのか、みんなわかっているわけで、町が作ってというのではなくて、自分たちで作るような心構えがないとなかなか難しいのかなと、そのようなことを支えていきながらやっていきたいと思っています。

○2番（福本栄一郎君） それは、ですから、自主防にやったいろんな備蓄品のカンパンとか飲料水、毛布とか、それをただ投げちゃっているんです。後の管理はどうしているんですか。ただ、予算を付けてやりました。自主防からきました。倉庫にいっぱいありますよ。カンパンなんか賞味期限切れ、これは切れてもいいでしょうけれども、そういったただ投げやり。それはいいんですけれども、町が考える避難路をどうするんですか。これは技術的な考えですよ。

自主防にやったって、自主防は区長さんは1期2年でしょう。おれがやる時に入ればいいよ。そうじゃなくて、役場はずっとあるでしょう。災害が来ても最後に頼るのは役場しかないでし

よう。我われも役場に頼るしかないです。親戚とか兄弟じゃないんです。役場を、住んでいる市町村を頼るしかないじゃないですか。その辺はどうですか。

考え方が・・・、避難路を作るといったって・・・、山を眺めて、それはわかると思うですか。そんなことを言っただけは失礼ですけども。だから、専門的な役場が見て、避難路を整備してください。測量をやって。そんな急こう配じゃなくて、ちゃんとできるでしょう。どうですか。

○町長（齋藤文彦君） 避難路は本当に防災に強いまちづくりに必要だと思っていますので、議員の言われたことは本当にそのとおりでと思っていますので、そのようなことを加味して避難路等も進めていきたいと思っています。

○2番（福本栄一郎君） 町長、思っています・・・、実際即25年度からうつしてください。だんだん時間が経つごとに人間の記憶が失われていきます。このあいだ来た先生も言っていますけれども、だんだん熱意が失われていますから、そうじゃなくて、いつ来るかわからないから、向こう100年、1000年の考え方でいてください。

次に、子育て支援、時間がないですから、奨学金が低いです。ある新聞に出ていますけれど、いわゆる所得格差がイコール学校教育の学力格差になっているということです。確かにそうだと思うんです。

専門の教育長さんがおられますけれども、ちょっと新聞を読みますと、「3年前の国際学力調査で日本の子どもたちの成績は改善した」と「しかし、成績の高い層が増えた一方で低い層も多いことが問題として指摘された」と、今度は、「全国学力調査では家庭の年収が高い子どもほど成績がよいという傾向がみられてきている」と、いいですか、いま仕事なんかないですよ。特にいろんな民間では。ですから、子育て支援ということについてみますと、やはり援助して・・・、確かに、子どもへの投資というのは、目に見えた効果が表れないです。5年、10年、誰もやりたくないですよ。政治家である市町村長は。

なにも効果がない。ああどうした。そうじゃないんです。長いあいだに育てていかなければ子どもは育たないんです。一朝一夕ではいきません。その辺の・・・、社会の所得が低くなって仕事がないことについては、子どもを育てやらなければいけないでしょう。子どもに対する未来への投資ですよ。これは。その辺は町長、どうですか。

米百俵という言葉があるでしょう。よく小泉さんが使いましたよね。その辺の町の考え方はどうですか、町長の考え方は。

○町長（齋藤文彦君） 私は、その教育に関してはいつも言うとおりの、国のもと、人のもと、教育だと思っています。それで、教育に金をかけるのはいくらかけても私はいいと思っている

んですけども、いま松崎町でこの奨学金を借りている方が23名います。それで、金額が低いのか、高いのか、私にはまだよくわかりませんが、いろいろ検討していきたいと思っているわけですけども、ちなみに静岡県で35市町がありますけれども、奨学金をやっているのが20市町ということでございますけれども、いろいろ福本議員が熱く語ってくれるわけですから、いろいろ考えてみたいと思います。

○議長（斉藤 重君） まとめてください。

○2番（福本栄一郎君） 高いか安いかじゃなくてね、1カ月5000円で何ができるんですか。この辺をよく考えてください。

例えば、大学に行く、大きく分けて国立・私立、その中でも理系・文系、一番掛るのが私立の理系ですよ。特殊な学部もありますよ。医歯薬、獣医がある、これは特殊ですけども、通常で少なくともアパート代を出せるくらいの金は出せないんですか、10万円くらいは。5000円で何ができるんですか。

あなたが、町長、いま言ったように、子どもは大事・・・、こうなると回答はいいですね。未来への、子どもたちへの投資なんですよ。次の世代を背負っていきます。子どもたちが。イコール松崎町の活性化に繋がってくると思うんです。

住民票を移したから、よそへ行ったから・・・、いま、出来たでしょう税制改正でふるさと納税というのが。ふるさと納税をしてもらえばいいじゃないですか。人口がだんだん過疎化になってくる

子どもが財産だという考え方は。もう一回、その考えだけ。それで私は終わります。

○町長（齋藤文彦君） 国のもととは人、人のもととは教育だと思っていますから、教育にかけては私はいくらかけてもいいと思っていますけれども、ただ、奨学金はプレゼントするわけにはいきませんので、返してもらわなければならないから、高ければいいのかなというようなことがいろいろ疑問にあるので、いろいろ福本議員が熱く語ってくれましたので、これは検討してみたいと思っています。

○2番（福本栄一郎君） だったら、補助金、奨学金の給付制度、お金を返さなくてもいいよ。これは松崎町があなたを育てる、未来への投資だからといって、補助金なり、給付制度、ただくれてやる。その辺はどうですか。それで終わりますけれども、どうでしょうか。

○町長（齋藤文彦君） だから、いろいろ検討してみたいと思っています。

○議長（斉藤 重君） 終わってください。

○2番（福本栄一郎君） でしたら、25年度予算で検討してください。

以上で終わります。ありがとうございました。

○議長（斉藤 重君） 以上で、福本栄一郎君の一般質問を終わります。

暫時休憩します。

（午前 9時55分）
